

# 京都観世会二月例会

令和6年2月25日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会

〈番囃子〉

西行桜

梅若桜雪

〈狂言〉

成上り

茂山あきら

〈能〉

浮舟

味方 玄

〈能〉

春日龍神

河村晴久

龍女之舞

## 会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み

☎ 075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

WEBサイトの公演情報からご予約が出来ます。



前売券は1月10日(水)より発売致します。

◆WEBで指定席が購入できます◆

一般前売指定席券 (1階)	8,500円
一般前売自由席券	6,500円
一般当日券 (自由席)	7,000円
学生券 (2階自由席)	3,000円

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

### 京都観世会館案内図



東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

### ◆京都観世会館へは

- JR京都駅から—  
市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車  
徒歩約3分 (乗車時間約30分)
- 市バス[86][206]で「東山仁王門」下車  
徒歩約5分 (乗車時間約30分)
- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え  
「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急京都河原町駅から—  
市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車  
徒歩約5分 (乗車時間約15分)
- 京阪三条駅から—  
市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車  
徒歩約3分 (乗車時間約7分)
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- JR二条駅から—  
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
- 山科・醍醐方面から—  
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9～17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から—  
①番出口から徒歩約5分

# 京都観世会二月例会

## 後見・地謡

### 西行桜

老桜 精梅若桜雪 (番囃子)  
西行上人 福王茂十郎 大鼓 山本哲也 大鼓 前川 光長  
花見人 喜多雅人 小鼓 林 吉兵衛 笛 杉 市和

### 成上り

間 能方 茂山逸平  
(狂言)  
太郎冠者 茂山あきら 主人 茂山 宗彦  
通舞りの者 井口 竜也

### 浮舟

里女 味方 玄 (能)  
旅僧 江崎欽次朗 大鼓 河村 大  
彩色 間 里人 茂山千之丞 小鼓 吉阪 一郎 笛 杉 信太郎

網之段 (仕舞) 大江 信行  
船橋 河村 和晃

(二時二十分頃)

宮守 河村 和貴  
龍女 味方 團

### 春日龍神

龍神 河村 晴久 徒僧 岡 充  
明恵上人 有松 遼一 大鼓 河村 凜太郎 太鼓 井上 敬介  
徒僧 原 陸 小鼓 曾和 鼓堂 笛 左 鴻泰 弘

附 祝 言

(終了予定 三時半頃)

井上裕之真 アイ 茂山 逸平  
大江 広祐 田 茂井 廣道  
宮本 茂樹 梅 若桜 雪  
深野 貴彦 片 山 九郎 右衛門  
ワキ 喜多雅人 浦 田 保親  
ワキ 福王 茂十郎

(後見) 柴田 鉄平

谷 弘之助 橋本 光史  
河村 浩太郎 古橋 正邦  
大江 泰正 青木 道喜  
吉田 篤史 分林 道治

浅井 風矢  
河村 博重  
浦田 保浩  
橋本 忠樹

林 宗一郎 寺澤 拓海 浦部 幸裕  
杉浦 豊彦 (地謡) 樹下 千慧 吉浪 壽晃  
梅田 嘉宏 河村 晴道  
松野 浩行 片山 伸吾

## 解説

### 西行桜

京都西山の西行法師の庵室の桜は今が満開で、都から大勢の見物人がやってくる。西行は今年桜を一人で楽しむのうと思ひ、能力に花見禁制の旨を人々に告げさせるが、はるばる都から訪れた人達をむげに断ることもできず、花見を許し一行を庭へ通す。しかし、やはり俗な花見客は心外だ、これも桜の咎だろうと、花見人と群れつつ人の来るのみぞあたら桜の咎にはありける」と歌に詠む。

すると、その夜の夢に木陰から桜の精が現れて、先程の歌を詠んだ心を問いただす。そして「桜の咎」とされたことは承服できないと不満を述べ、非情無心の草木の花には何の罪もないことを西行に訴える。その一方で、西行に知り合ったことはこの上ない喜びだと言ひ、京都の桜の名所を次々と挙げてその美しさを讃え、春の夜を惜しみながら物語りた舞を舞う。やがて夜も明け、桜の精は消え失せ、西行の夢も覚めるのであつた。

### 浮舟

初瀬から都へ向かう旅の僧が、宇治川で芝船に乗る女と出会う。女は僧の問ひに、昔この地にいた浮舟の物語を語る。光源氏の子(実は柏木の子)である薫に愛された浮舟は、朱雀院の子である兵部卿の匂宮に通じることになり、二人への想いに耐えられず、姿を消した。詳しく語る女に、僧は住まいを尋ねると、小野の者と答え、物の怪に苦えしむ身の救いを求めて消え失せし。

里人から浮舟の物語を聞いた僧は、小野に行き、経を讀んで弔いをする。すると、浮舟の霊が現れ、物の怪に取り憑かれ、心も空になった有様を見せるが、僧の弔いに助けられたことを喜び、夜明けとともに姿を消す。

### 春日龍神

山城国榎尾の明恵上人が入唐渡天を志し、その暇乞ひに春日明神へ参詣するため、奈良春日の里へとおもむく。そこへ宮守の尉が現れ上人が天竺・唐土へ渡ろうと考へていることを聞き、それは神慮に背くことであると引き止める。というのも、春日の明神は、年始をはじめ四季折々の

## お客様へお願い

- ◆都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆上演中は、携帯電話など音や光を発する機器の電源はお切りください。
- ◆見所(客席)での飲食はご遠慮ください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

## 【表紙写真】

《浮舟》橋本 擴三郎  
金の星渡辺写真場撮影

## 次回予告

### 京都観世会三月例会

令和6年3月24日(日)

午前11時開演

(能) 養老 松野 浩行

(狂言) 土筆 茂山 忠三郎

(能) 碁 復曲 片山 九郎 右衛門

上人の参詣を心待ちにしておられ、上人を太郎と名づけ、笠置の解腕上人を次郎と呼び、両の眼両の手のように思召し、守護遊ばすと伺っているの、上人が日本を去り天竺・唐土へお渡りになったは明神の思召しに背くことに入唐天も仏跡を尋ねるためであるから神慮に響くはずはないと答える、この春日山こそが説法された靈鷲山であると論ず。上人は即ちこれを御神託と思ひ、渡唐を思い止まり、名を尋ねると、尉は渡唐を止まるならば、三笠山に五天竺の様を写し、釋迦の誕生から入滅の様まですべてお見せしようという神の告を伝えるに來たもので、時風秀行と名のり、かき消すように消えてしまふ。

(中人)

やがて春日野の野山は金色の世界となり、八大龍王が百千の眷族を引き連れて出現し仏の会座に参会する様を見せる。上人が入唐渡天を止まる由約束をする、龍神は失沢の池の水を蹴立てて消え失せる。時風秀行とは春日龍神が鹿島から春日山へ移り給うるときに供奉した二人の者。能本ではこれを一人として取扱つて

【お知らせ】  
今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。  
「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。